



ズッキーニ

ズッキーニは外見はキュウリに似ているもの、和名は「つるなしかぼちゃ」という、ウリカボチャ属の野菜です。完熟して食べる西・日本かぼちゃと違って、ズッキーニは完全熟さない幼果を食用とします。生産量は、宮県が全国1位。市場にはあまり出回りません、黄色の花も食べることができます。栄養面はカリウム、カロテン、ビタミンを多く含み、血圧予防や免疫力アップ、むくみ解消などが期待できます。ヘタの切り口が新鮮で傷んでいいもの、太さが均一なもの、表面にツヤがあり、傷が少ないものを選ぶとよいでしょう。みやすいので早めに使い切ることをおすすめますが、すぐに食べきれない場合は、ラップ新聞紙に包んで冷蔵庫で保存してください。

ズッキーニは、イタリア料理に利用されるイメージがありますが、クセのない淡白な味は天らや味噌汁など和食にもよく合います。普段食卓にもアレンジして取り入れたいですね。



QRコードの読み取りには、アプリ「QR・JANコード読み取り
コードリーダー」を推奨しています。



●レシピ監修 レシピユニット「みやぢゃぶ」

「みやちやぶ」は“食”に興味旺盛な4人で運営しています。特産物や旬の
メニュー／青木直美 飯田みどり 伊藤佳代 佐藤薫

※宮崎市地域雇用創生協議会主催 フードビジュアル・コーディネーター養成講座の平成25年度養成科卒業生で構成しています

※この欄は、広告です。掲載されている広告の内容などの問い合わせは、直接広告主へお願いします。

大好きな宮崎を、
もつともっと良くしていこう。
東北と関わる中で見つけた、
私の思いです。

宮崎市で輝いている人を紹介する「キラリ！ 宮崎人」。
今回は、東日本大震災の被災地で復興支援を行っている
ボランティア組織の宮崎支部リーダー、田口あかりさんです。



宮崎公立大学 人文学部4年

キラリ!
宮崎人07

Miyazaki Human Interview

QRコードの読み取りには、アプリ「QR・JANコード読み取りバーコードリーダー」を推奨しています。

がらも、なかなか伝えられないジレンマを抱えていたことを明かします。 「みんなの意見を引き出してまとめることに懸命になりすぎて、気が付いたらいっぱいになってしまつて…。周りの協力を得ることの大切さを学びましたね」

「きっかけバス47」宮崎県支部は3か月間で40人の参加者を集め、今年3月に東北へ。被災地ではボランティア活動や地元の皆さんとの交流を通じ、人の温かさに触れたそうで

会を作つていけたらいいなど考えています」「きつかけバス47」に参加したメンバーは、大半がボランティア初挑戦。バスで被災地を巡る中でみる見る顔つきが変わつていったそうです。

「災害の恐ろしさを目の当たりにし、私も含めてみんな意識が変わりました。震災から3年半が経ち、風化などの戦いも始まっています。これからも東北と関わりながら、宮崎にその様子を伝え、防災活動にも取り組

その惨状に大きな衝撃を受けました。居ても立つもいらなくなつた田口さんは、同年7月に被災地のボランティアに参加。昨年春には、留学先のカナダで復興支援イベントの運営にも携わりました。

そんな中で出会つたのが、全国から被災地に大学生を送るプロジェクト「きつかけバス47」。昨年12月の時点ではまだ宮崎に組織がなく、友人の後押しでプロジェクトを立ち上げた田口さんでしたが、「人前で話したり、みんなをまとめたりするのが苦手な性格なので、不安は尽きませんでした。

現在、田口さんは大学4年生。卒業後は市内のＩＴ関係の会社に就職予定です。

東北で奮闘する人々に感銘
大好きな宮崎の力になりたい

「東北では、人と人との絆がいかに大切かを痛感しました。関われば関わるほど、東北のことを大好きになつていく自分がいました」